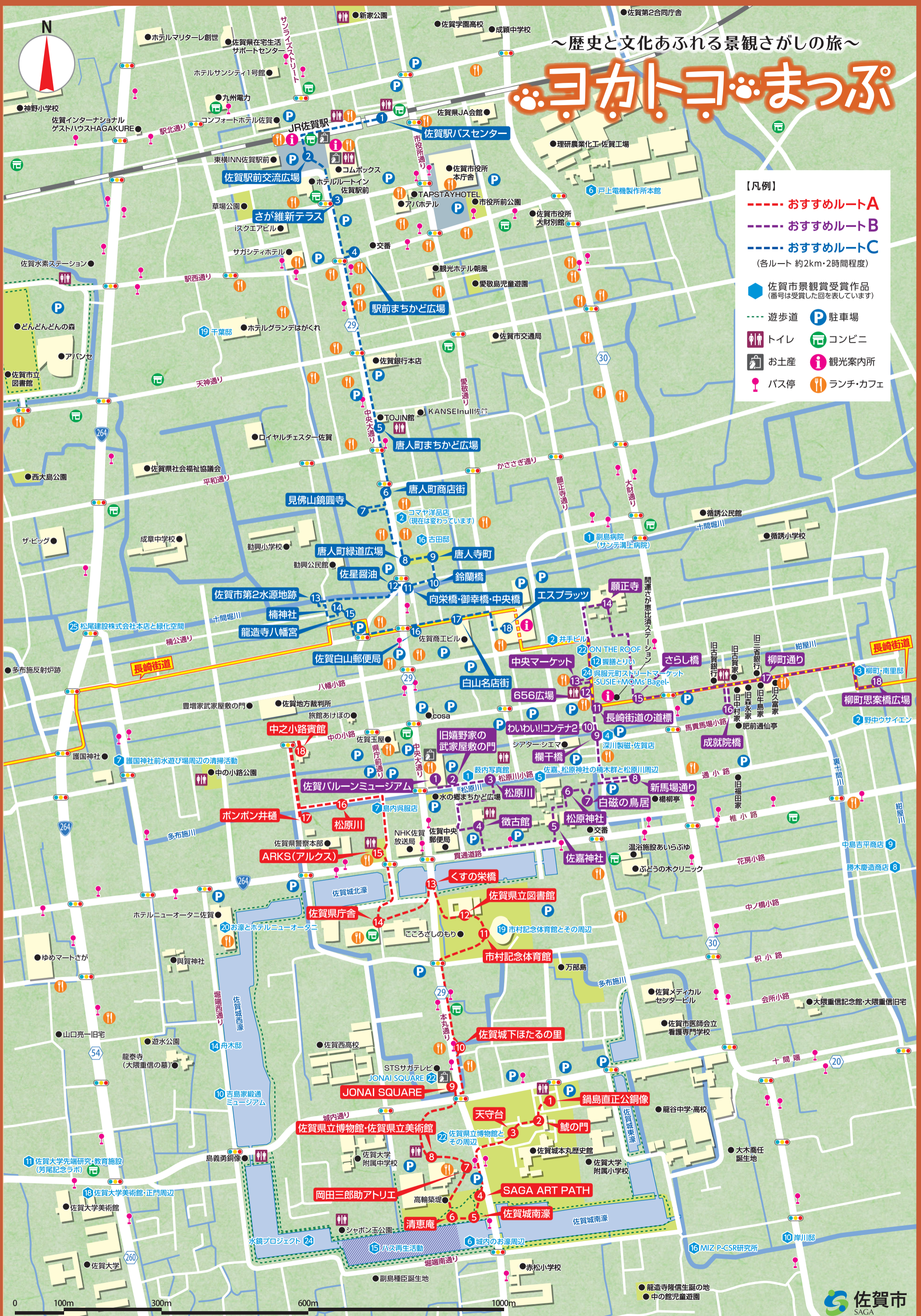


～歴史と文化あふれる景観さがしの旅～ ヨカトコマップ

- 【凡例】
- おすすめルートA
 - おすすめルートB
 - おすすめルートC
(各ルート 約2km・2時間程度)
 - 佐賀市景観賞受賞作品
(番号は受賞した回を表しています)
 - 遊歩道
 - 駐車場
 - トイレ
 - コンビニ
 - お土産
 - 観光案内所
 - バス停
 - ランチ・カフェ



ルート
A

佐賀城内を中心に
水と緑を感じながら
歩く歴史と文化の
散策ルート。

1 鍋島直正公銅像

西洋の科学技術をいち早く取り入れ、幕末佐賀を薩長土と並び雄藩にのし上げた佐賀藩第10代藩主、鍋島直正公の銅像。台座も含めると約8.5メートルあり、生誕200年を記念し、平成29(2017)年3月に73年ぶりに再建されました。



7 岡田三郎助アトリエ

明治41(1908)年頃に現在の東京都渋谷区恵比寿に建築され、佐賀出身の洋画家、岡田三郎助が昭和14(1936)年まで作品の制作に打ち込んでいた木造洋風建築のアトリエです。平成30(2018)年に現在地に移設・復原されました。国の登録有形文化財です。



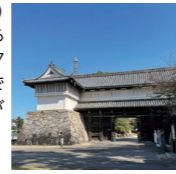
13 くすの栄橋

平成10(1998)年3月に開通し、市中心部と城内、南部地区を貫いて、佐賀空港までほぼ直線です。全長53メートルで幅員最大19メートル。歩道には、佐賀市と友好関係にある中国・連雲港市の石が使用されています。



2 鯨の門

佐賀城本丸の門として天保9(1838)年に完成。屋根の青銅製の鯨から「鯨の門」と呼ばれています。明治7(1874)年の佐賀の乱(佐賀戦争)では銃弾にさらされ、その時の弾痕が今も扉に残っています。



8 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

博物館は昭和45(1970)年に明治百年記念事業として、美術館は昭和58(1983)年に県政百年記念事業として開館しました。共に佐賀県の文化活動の拠点として、多くの郷土資料等の調査・研究と展示・紹介が行われています。



14 佐賀県庁舎

旧館は昭和25(1950)年落成。正面の4本の石柱はその前年の火災で焼け残った正面玄関の柱でした。新館は平成6(1994)年竣工。かつては佐賀県内で最も高い建築物で、最上階には展望ホールやレストランも配されています。



3 天守台

慶長12~14(1607~1609)年にかけて佐賀城天守閣が築かれましたが、享保11(1726)年、本丸・二の丸・三の丸・天守閣が焼失。その後近代になって、佐賀測候所や協和館がありました。現在は更地となっています。



9 JONAI SQUARE

現代的でシャープなデザインが魅力的な、カフェやショップからなるサガテレビの施設。水辺空間を取り込んだテラスや通り沿いの植栽から見えるガラス越しの店内が、昼も夜もおしゃれな空間を形成し、周囲の景観を活かしたスポットとなっています。



15 ARKS(アルクス)

ARKSとは、「歩く」と、県木である「楠の木」を組み合わせて名付けられました。より多くの人に訪れ、歩いて過ごすことの楽しさを感じてもらいたいとの思いが込められています。レジャーシートや遊び道具のレンタルも行ってきます。



4 SAGA ART PATH

佐賀市出身の彫刻家、古賀忠雄の代表的な彫刻作品を県立博物館や美術館周辺の野外(佐賀城公園)に展示し、周辺環境を芸術空間として古賀忠雄の作品のすばらしさを多くの方に鑑賞していただくため、平成6(1994)年3月に開園しました。



10 佐賀城下ほたるの里

佐賀市の中心部を通過して城内に入る多布施川の一角にあり、通称「馬洗場」とも呼ばれています。ホタルが飼育される人工池で、毎年シーズンになるとたくさんのホタルの演舞が楽しめます。



16 松原川

「松原川に河童が住める清流を」と、市民が水に親しむ親水公園として平成3(1991)年に美しく生まれ変わりました。また川沿いにはガス灯風の街灯や石畳の道路などが整備されていて、ロマンチックな遊歩道として親しまれています。



5 佐賀城南濠

広いところでは50メートル以上の幅がある水濠で、散策やランニングに最高のロケーションです。シーズンにはたくさんのハスが群生し、可憐なハスの花を楽しむことができます。



11 市村記念体育館

佐賀県出身の実業家でリコー三愛グループの創始者である市村清により佐賀県に寄贈された施設で、昭和38(1963)年に「佐賀県体育館」として開館しました。坂倉準三の設計で、正面からは王冠を思わせ、側面は馬の鞍型をした独創的なデザインが特徴です。



17 ポンポン井樋

多布施川から松原川への取水の井樋で、サイフォンの原理を用いた構造で水が流入吐出する際に音をポンポンと発します。以前は常に流れが渦を巻き、子供達の格好の遊び場所でした。



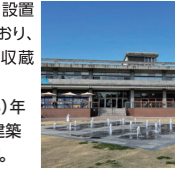
6 清恵庵

佐賀県出身の実業家、リコー三愛グループの創始者である市村清の遺志により、幸恵夫人から寄贈され、昭和48(1973)年10月に、佐賀城の広い南濠に面した現在地に建てられた登録有形文化財の茶室です。茶室建築の第一人者、堀口捨己による設計です。



12 佐賀県立図書館

大正3(1914)年に鍋島家により設置された佐賀図書館を前身としており、鍋島家の貴重な資料も数多く収蔵されています。現在の図書館は昭和38(1963)年に開館した建物で、モダニズム建築として、高い評価を受けています。



18 中之小路賓館

明治から平成までの123年間にわたり佐賀知事の住まいとして利用された旧知事公舎。和と洋が調和した建築様式で、昭和36(1961)年には昭和天皇もご宿泊されるなど県の賓客のおもてなしの場所として長い歴史を積み重ねてきました。



ルート
B

江戸時代より商人の
町として賑わった
町並みを歩く
生活と文化のルート。

1 佐賀パルーンミュージアム

天気は左右されずいつでもパルーンを体験できる日本初の常設型熱気球ミュージアムとして平成28(2016)年にオープンしました。パイロット気分を味わえるパルーンフライトシミュレーターやパルーンの機能や歴史に関する展示等を行っています。



7 白磁の鳥居

松原神社の境内にある有田焼で作られた珍しい鳥居です。有田・伊万里の磁器生産の起源をつつた鍋島直茂公が祀られている松原神社に明治23(1890)年に奉納されました。神社内には白磁の燈籠も奉納され設置されています。



13 中央マーケット

昭和21(1946)年にできたとされている屋根下の商店街で、昭和レトロな雰囲気が高い、タイムスリップしたような感覚を味わうことができます。かつては30軒ほどの店舗が営業しており、今も数軒の飲食店や店舗が軒を連ねています。



2 旧嬉野家の武家屋敷の門

嬉野家は県西南部を中心に勢力を持っていた武士で、この地には約30間(60m)四方の広大な屋敷地がありました。この門はかつて「中門」と呼ばれ、その東側には屋敷の正門であった長屋門もあったと伝わっています。切妻造の本瓦葺で、火除けの「水」の字が入る鬼瓦を載せています。



8 新馬場通り

文化14(1817)年に松原神社と東にあった下宮をつなぐ参道として整備され、当時、通りには3つの鳥居が並んでいました。かつてはたくさんの旅館が立ち並び、なかでも東側の角に建つ松川屋は、森鷗外をはじめ、多くの著名人などが宿泊した老舗旅館でした。



14 願正寺

慶長5(1600)年に佐賀藩初代藩主、鍋島勝茂公によって建立されました。境内には明和5(1768)年に再建された鐘楼があり、元禄9(1696)年から城下への時鐘として用いられました。本堂や鐘楼、山門などは国の登録有形文化財に登録されています。



3 松原川

松原川は市民が水辺に親しむことができる親水公園として整備されました。松原川にはたくさんのカッパの像があり、川沿いの遊歩道を散策しながら探すのも一興です。その中に、右手を出して握手を求めカッパがいるので、握手を試みましょう。



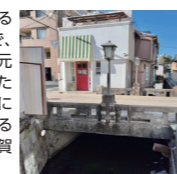
9 欄干橋

江戸時代には橋の北側に大きな門があり、町人地と武家地の境界となっていました。かつては川幅が広く多くの舟が通行していたため大きな太鼓橋だった記録が残っています。橋の名前は近く「御殿様の休憩所「欄干茶屋」があったことから付けられています。



15 晒(さらし)橋

長崎街道の、裏十間川につながる「呉服町水路(真宗橋)」にかかる橋で、欄干には往時を思ぶガス灯が復元されています。昔、罪人と罪状を記した木札を吊し、この橋を通る人達に見せしめたことが名前の由来となる説があります。近くには、かつて佐賀藩の本陣が設けられていました。



4 徴古館

鍋島家第12代当主直胤(なおみつ)公により昭和2(1927)年に創設された佐賀県内初の博物館で、初期の鉄筋コンクリート造建築です。平成9(1997)年に国の登録有形文化財に登録されました。現在は、鍋島家伝来の美術工芸品や歴史資料などを幅広く公開しています。



10 わいわい!コンテナ2

平成24(2012)年、商店街の空き地となっていた敷地にコンテナを改造した施設を設置し、街なかで誰もが自由に無料で楽しむことができます。「空き地リビング」としてスタートしました。休憩や待ち合わせ、親子や仲間との団らん、イベント開催など、市民に幅広く利用されています。



16 成就院橋

北の町人地と南の武家地を結んでいた橋で北西にあった寺院「成就院」の名が付けられています。橋が架かる裏十間川はかつて川幅が今の2倍以上あり、長崎街道の町家に物資を運ぶ小舟がたくさん行き交っていました。



5 佐嘉神社

幕末の名君、佐賀藩第10代藩主鍋島直正公、第11代藩主鍋島直大(なおひろ)公を祀る神社で、昭和8(1933)年に別格官弊社になりました。境内には築地や多布施の反射炉で鉄製大砲を鍛造した偉業を称えて復元されたカノン砲があります。



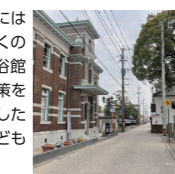
11 長崎街道の道標

江戸時代、長崎と小倉を結ぶ長崎街道に設けられた道標で、長崎と小倉の方向を指し示しています。当時の道標のほとんどが姿を消してしまいましたが、佐賀城下に現存する3つの道標の一つで、貴重な存在です。



17 柳町通り

長崎街道の一部である柳町通りには旧古賀銀行をはじめとする数多くの歴史的な建築物(佐賀市歴史民俗館等)が建ち並んでいます。歴史散策をしながら、建物をリノベーションしたカフェやショップ、伝統工芸店なども楽しめるエリアです。



6 松原神社

佐賀藩第8代藩主鍋島茂公により、藩祖鍋島直茂公を御祭神として安永元(1772)年に創建されました。直茂公は法号を日峯と称することから、「日峯(にっぽう)さん」として親しまれ、春と秋にはお祭りが開催されています。



12 656(むつごろう)広場

656広場は商店街の中心的な広場として多くの市民に親しまれてきました。平成28(2016)年にリニューアルし、日々数多くのイベントが開催されるスポットとなっています。オープンスペースなので、誰でも気軽に利用することができます。



18 柳町思案橋広場

紺屋川に架かる思案橋のたもとで、平成31(2019)年に石垣護岸や石段等の歴史的な建築物(佐賀市歴史民俗館等)が建ち並んでいます。歴史散策をしながら、建物をリノベーションしたカフェやショップ、伝統工芸店なども楽しめるエリアです。

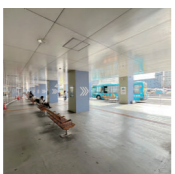


ルート
C

佐賀駅から城下町へ
現代の街並みを歩く
近現代文化の散策ルート。

1 佐賀駅バスセンター

かつて佐賀駅周辺に点在していたバス停を集約するため、昭和51(1976)年に鉄道高架化にあわせて開業しました。平成16(2004)年、令和4(2022)年とリニューアルを重ねながら佐賀市の交通の要衝として多くの人が利用しています。



7 見佛山鏡圓寺

寛永3(1626)年に建立された鏡圓寺には、唐人町商店街を作った高麗人の李宗欽一族や、鍋島更紗創始者である丸山道清の墓があります。これまで2度火災に遭いましたが再建され、永きにわたり唐人町を見守り続けている寺院です。



13 佐賀市第2水源跡

この場所にはかつて井戸やポンプが造られ、佐賀に初めて水道が通った正5(1916)年から、現在の浄水場が建てられるまでの半世紀に渡り、市民の生活用水を支えていました。その後、勸興公民館が建てられ、現在は駐車場として活用されています。



2 佐賀駅前交流広場

佐賀の街の玄関である佐賀駅前交流広場は、令和4(2022)年に「車中心」の広場から「人が中心」の広場にリニューアルされました。広場には大屋根が設置され、年間を通して多様なイベントやキッチンカー等の出店で賑わいを見せています。



8 唐人町緑道広場

交通の円滑化のため、唐人町を横切る形で東西に計画された道路用地でしたが、その後計画が見直され、現在は歩行者中心の緑の道として整備されました。この場所では季節ごとに様々なイベントが行われており、街の広場として親しまれています。



14 楠神社

安政3(1856)年、佐賀藩執政鍋島安房公が楠公父子桜井の驛訣別の像を八幡宮境内に遷したことが楠神社のはじまりとされ、楠公義祭同盟の精神は佐賀の七賢人に大きな影響を与えています。本殿は明治36(1903)年、拜殿は昭和10(1935)年に建築されました。



3 さが維新テラス

昭和51(1976)年の佐賀駅北側移転とあわせて整備された駅前道路は、令和4(2022)年に車道を減らし歩道が拡幅されました。歩道にはベンチやテラス席が設けられ、人で賑わう道路へとリニューアルされました。



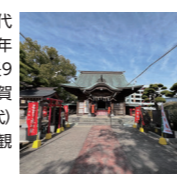
9 唐人寺町

かつて物資の運搬に使われていた2本の水路に挟まれた寺町は、中央大通りと並行して伸びるもう一つの商店街でした。昔は様々な店が軒を連ね、多くの人で賑わったと言われていました。その名残りとしてエビス像も多く、町内ではエビス祭りの風習が受け継がれています。



15 龍造寺八幡宮

龍造寺家の始祖、南次郎季家が第15代応神天皇を主神として文治3(1187)年に建立した歴史ある神社です。慶長9(1604)年に造られた肥前鳥居は佐賀市重要文化財に、宝暦年間(1750年代)に再建された社殿は佐賀都市景観重要建築物等に指定されています。



4 駅前まちかど広場

かつては佐賀駅の駅前ロータリーがあった場所、現在は街の広場として活用されています。定期的に市民による花の手入れや清掃が行われ、広場の一角には、佐賀ゆかりの偉人のモニュメントも設置されています。



10 鈴蘭橋

旧城下町と新市街地を隔てる十間掘川はかつて十間(18m)の川幅があったとされ、この橋から東側を望むと川の中に架かっていた中之島を見ることが出来ます。鈴蘭橋を南に渡れば、券園気の良い狭い路地(すずらん通り)に繋がります。



16 佐賀白山郵便局

江戸時代には飛脚が宿泊する使者屋があった場所に明治4(1871)年、佐賀郵便取扱所が建てられ、郵便、為替、電信といった佐賀の情報通信の重要拠点として機能していました。現在は中心機能が佐賀中央郵便局に移りましたが、街の郵便局として親しまれています。



5 唐人町まちかど広場

昭和60(1985)年に中央大通りをリニューアルした際に設置されたポケットパークです。商店街によるストリートコンサートなどのイベントが定期的に開催され、広場の一角には、佐賀ゆかりの偉人のモニュメントも設置されています。



11 向栄橋・御幸橋・中央橋

東に架かる向栄橋は江戸時代に城下町と唐人町を繋いでいた唯一の橋でした。有事の時には落とせるように土の橋だったため土橋とも呼ばれています。その後、明治時代に西側の御幸橋が架けられ、昭和の時代に中央に位置する中央橋が架けられました。



17 白山名店街

江戸時代から商人の町として賑わった長崎街道に作られた約200mの商店街です。昭和55(1980)年にアーケードが造られ、多くの人々で賑わいました。市内で唯一となったアーケードの下では、50年以上の歴史を持つ銀天夜市が毎年夏に行われています。



6 唐人町商店街

慶長4(1599)年に佐賀藩主の鍋島直茂公が、秀吉朝鮮出兵での功績を果たした高麗人の李宗欽一族を住させたことから唐人の町(唐人町)と名づけられました。400年以上の歴史を持つ唐人町商店街は佐賀のメインストリートとして現代に引き継がれています。



12 佐星醤油

江戸時代に創業し明治30(1897)年から醤油を作り続けている老舗の醤油蔵です。昭和初期に建てられた事務所と居宅は手の込んだ意匠が施されており、洋風モダンの様子を今に伝えています。建物は第9回佐賀都市景観賞を受賞しています。



18 エスプラッツ

中心市街地活性化事業の一環として、平成19(2007)年にリニューアルオープンした街づくり基盤施設です。1階は生活必需品を中心とした商業エリア、2階は医療や子育て支援と公共的な市民サービスを柱としたエリア、3階はホールやカルチャーセンターを中心とした文化の発信基地となっています。

